

poco a poco

パラグアイ便り 2024/11/01 Número21

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【念願の“ドラド”を釣り上げました！】

みなさんは“ドラド（dorado=スペイン語で黄金という意味）”という名前の魚を知っていますか。その名の通り黄金色に輝く姿はうっとりするほど美しく“川の虎”と言われるほどの獰猛な肉食性の大型淡水魚です。針にかかっても高く飛び跳ね、瞬く間に華麗に逃げられてしまうこともしばしば。全長1mを超えるものもあり、釣り人達にとっては憧れの魚です。有名な生息地としては、パラグアイやブラジル、アルゼンチン、ボリビアなどです。帰国するまでにぜひその幻の魚を自分の手で釣り上げたいと思い、パラグアイとアルゼンチンの境にあるパラグアイ川とパラナ川の合流地点にあたる“パソデパトリア（Paso de Patria）”という場所に向かいました。実は以前も別の場所へ釣りに行ったことがありましたが、お目にかかることはできませんでした。そして今回ついに、ドラドを釣り上げることができました！朝から夕方まで一日中ボートに乗って釣りをしていましたが、一度だけ針にかかったものの、見事なジャンプで逃げられてしまいました。そして日が沈み始め「あと10分だけ！」と粘った最後の最後のその瞬間！！・・・奇跡だと思いました。恐ろしく気持ちの良い最高の気分を味わいました。何事も諦めてはいけないものだと思えました。

嬉しそうな私と、美しいドラドとのツーショットをご覧ください♪



↑ドラドが美しく輝いています
→何度も大きなピラニアが釣れました

【アスンシオン日本人学校で特別授業をさせていただきました】

日本とパラグアイの学校生活のちがいについて日本語で特別授業を行う機会をいただきました。日本人学校では日本の教科書を使用して日本の学校と同じように学習することができます。そこに通っている児童生徒のみなさんはパラグアイに住んでいますが、パラグアイの公立学校について詳しく知る機会は初めてだったそうです。様々な違いに驚き表情をコロコロと変えながら真剣に話を聞く姿がとても印象的でした。日本とパラグアイの学校生活のちがいを見つけ、それぞれの良さを自分たちのよりよい学校生活に生かそうとする前向きな姿に勇気と元気をもらいました。



【ひとこと】

ついに航空券を受け取り、本当に帰国が近付いていることを実感しました。そこで先日、今からやりたいこと（取得したい資格や仕事など）を書いてみようと思いつき、ノートに書き出してみました。非現実的な夢ではなく、今からでも自分の努力次第では十分に実現可能だと思えるものを書いていきました。書き出した目標の数は一瞬にして30個を超え、どれだけ長生きできたとしても時間が足りなくなることを確認しました。また歳を重ねて経験を積むほど、やりたいことは果てしなく増えていくばかりだとも思います。やりたいことがたくさんありすぎて何から手を付けようかとわくわくしながら真剣に悩む私のことを「やりたいことがたくさんあることは素敵だ。羨ましい。頑張って！楽しんで！」と応援してくれる友人や家族などの有難い存在が私の勢いを更に加速させます。

小学校の卒業文集の将来の夢コーナーには“ラーメン屋の店長”と書いたことを覚えています。他にも、理学療法士や看護師を目指していた時期があったことも。気が付けば小学校の教員として働いている私ですが将来の夢を持つことができない時期がありました。中学生くらいの時期です。目指してもなれるか分からない。達成できないと格好悪いから絶対になれると確信できる夢しか見つけたくない。そんなことを思っていた私は将来の夢について考えるという授業が憂鬱だったことをはっきりと覚えています。だからこそ「とにかく夢を持て！」なんていうことは、自分の生徒には絶対に強要したくありません。もちろん夢や目標を持つことのメリットは計り知れませんが、無理矢理に持てる訳ではありません。目の前のことをただひたすら一生懸命にこなしていれば、思わぬタイミングで何かがかきかけとなり、誰でもいつか必ず夢が見つかるものだと思っています。自分の心が舞い踊るような“好きなこと”に敏感になってさえいれば、その近くに夢が転がっているのではないかと。自分の好きなことに一直線なエネルギーで力強いパラグアイ人女性たちのように、私も美しく歳を重ねていけたらと思います。